

デジタル・ガバメント技術検討会議 データTFにおける検討
行政データ連携標準（仮称）
の策定について

平成29年11月16日

デジタル・ガバメント技術検討会議
データ・タスクフォース

デジタル・ガバメント技術検討会議について

- デジタル・ガバメント推進方針等を実現していくため、特にプラットフォームやITマネジメントに関する論点等、技術的な課題を検討する必要がある
- このため、CIO連絡会議の下に、政府CIO補佐官の代表者等から構成し、検討を開始する

CIO連絡会議

副CIO連絡会議

CIO連絡会議幹事会

CIO連絡会議
実務担当者WG

政府情報セキュ
リティ・IT人
材対策WG

新規に設置

デジタル・ガバメント技術検討会議

当座、テーマごとに4つのタスクフォース(TF)を設置。TFは政府CIO補佐官、民間有識者で構成し、略式なスタイルで内容検討

提案・連携

① ガイド・タスクフォース

② データ・タスクフォース

③ 技術タスクフォース

④ 人材タスクフォース

- ① 情報システムの整備及び管理に関する標準的なルールや方針、ノウハウや事例の検討
- ② 標準的に利用すべきデータの取り扱いに関する検討
- ③ 標準的に利用すべき技術の取り扱いに関する検討
- ④ プロジェクトの初動体制、橋渡し人材等の育成に関する検討

データ・タスクフォース

■ 主な検討テーマ

➤ データ

- 行政機関が扱うマスターデータの設計方法、運用方法を検討

➤ コード

- 行政機関が扱うコードの設計方法、運用方法を検討

➤ API

- 行政機関がAPIを設計、運用するための方法を検討

➤ 文字

- 漢字、フリガナ、ローマ字、英字の管理、運用方法を検討

➤ 行政データ連携標準(仮称)

- 日付、住所、電話番号等の社会の基本データを連携するための検討

官民データ活用推進基本法実現のために重要なので、前倒して検討を実施中

行政データ連携標準(仮称)

前提

- サービスの広域化や異なる組織間のサービス連携、AI等によるデータ活用が注目されており、この取り組みを推進するため2016年12月に官民データ活用推進基本法が制定された。
- ライフサイクルを通じた行政情報の活用、また、ワンストップサービスやワンスオンリーを実現するためにデータ標準化の重要性は一層増してきており、上記基本法においても重要施策に位置付けられている。
- これまでは、人による視認性を重視したデータ設計が中心であったが、現在は、データ活用を前提とした設計にすることが求められている。また、コードを活用しデータの品質を高めることも求められている。
- 行政データ連携標準(仮称)では、行政内のデータ連携を円滑に行うために必要なデータ表現ルールの検討を行っている。

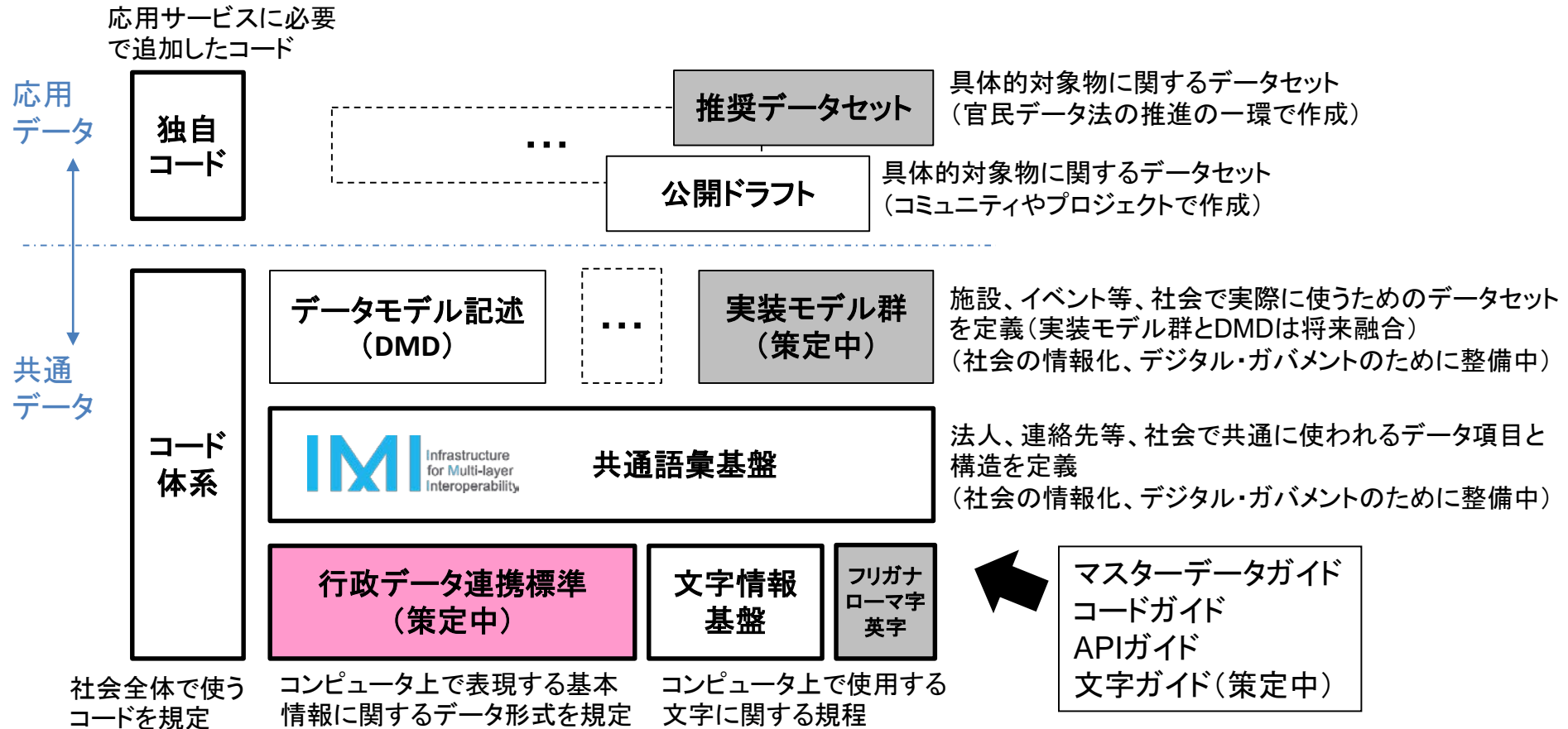
基本原則(案)

以下のような内容を行政データ連携標準の基本原則としてはどうか。

- 本標準は、日本工業標準及び国際標準に準拠し、行政のデータ連携のために補完するものである。
- 本標準は、データ連携のための技術標準であり、印刷や画面での表現を制約するものではない。
- 本標準は、既存、新規を問わず情報システム内のデータに制約を与えるものではない。
 - データ連携時に必要な標準であることから、情報システムの新規開発、情報システムの更改時に内部データにも本標準を使うことで相互運用性の高いシステムを構築することが可能。
 - 組み込みシステム等の機器の制約や処理の高速性が重要なものは、独自データ形式のほうが良い場合もある。
- 本標準は、データがグローバルに流通することを前提として設計される。
- 本標準は、政府内の所定の手続きを経て制定することとする。
 - デジタル・ガバメント技術会議での議論後、CIO連絡会議決定を想定。

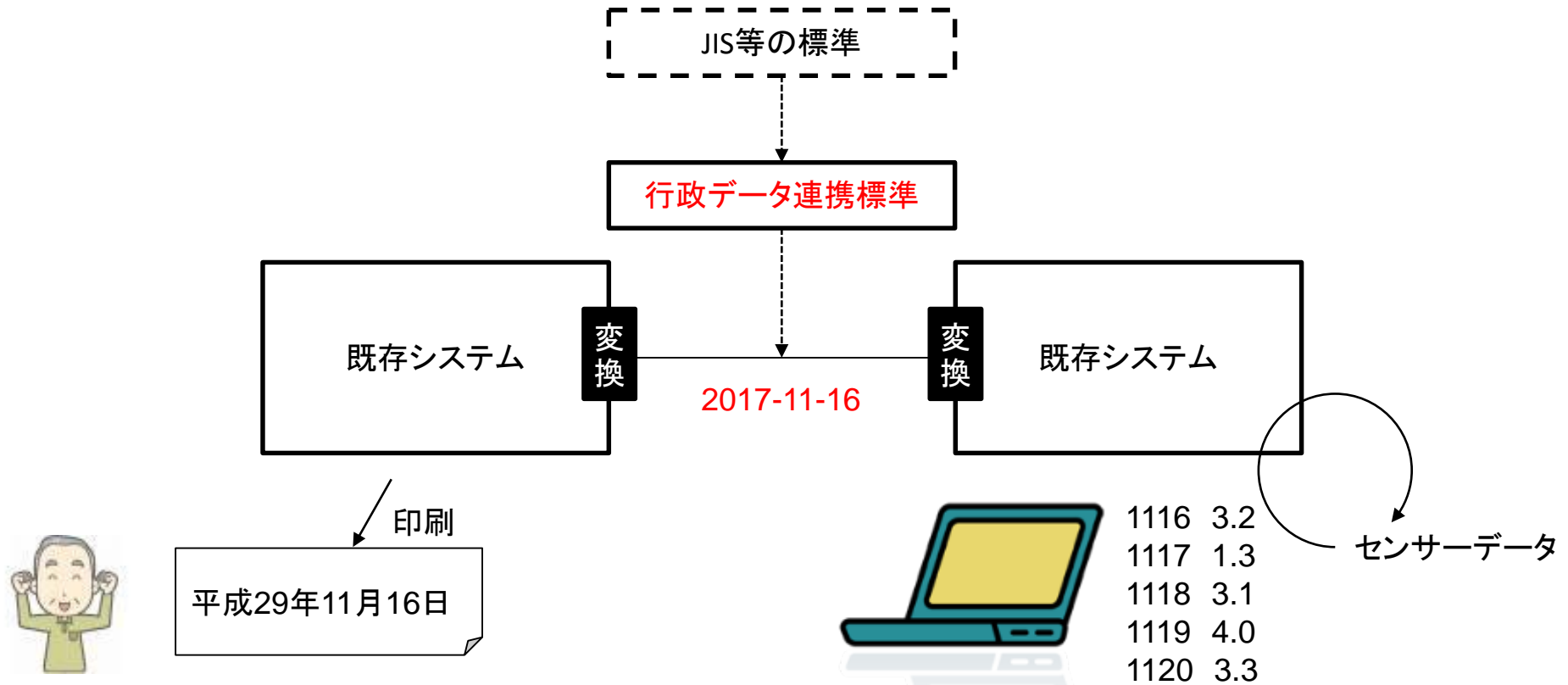
データ体系の全体像

- データ連携に必要なデータの定義、コード一覧を対象とする。
 - データ(日付・時刻、住所、郵便番号、電話番号等)
 - コード(公共施設等、町字、性別等)
- データ利活用のためには、基本データからの積み上げに基づく体系の中で管理し、相互運用性を確保していく。



利用イメージと今後の進め方

- 既存システムへの影響を最小限に抑え、データ変換によってデータ連携を実現。



■ 今後の進め方

- データTFで技術面の検討を年内に行い、β版等での関係者からの意見収集、各省調整を経て、今年度中を目途にCIO連絡会議決定を想定。

検討中のデータ表現のイメージ

(前半の資料の理解をしやすくするためにイメージとして提示したものの初期検討案であり、今後、関係者との意見交換を通じて精査を実施。)

検討例(日時)

■ 日付

- 現状: 「2017年11月16日」「2017/11/16」「20171116」「2017-11-16」
 - » データ形式が多様な上、実施日、開館日等と休館日等が混在。
- 案: 「2017-11-16」
 - » ISO8601拡張様式に統一し、実施日、開館日等の利用可能日を記載。
 - » また、「/」はISO8601で期間データのセパレータとして定義されているので準拠。(例:2017-11-16/2017-11-18)

■ 時刻

- 現状: 「10:00-12:00」「10:00～11:00」「10時—12時」
 - » データ形式が多様な上、注記事項が追記される場合が多い。
- 案: 開始時間「10:00」、終了時間「12:00」、備考「(自由記述)」
 - » ISO8601様式にするとともに、データを分割して処理しやすくする。
 - » 24時間表記とする。

■ 曜日

- 現状: 「月曜日」「月曜」「月」「月曜-水曜」「月曜～水曜」
 - » データ形式が多様。
- 案: 漢字の場合「月火水」、コードの場合「123」
 - » データを処理しやすくするとともに、コードも活用。

検討例(場所)

■ 住所

- 現状: 「東京都千代田区霞が関2-1-2」
「〒 100-8926 東京都千代田区霞が関二丁目1-2 合同庁舎2号館」
 - » データ形式が多様。「字」の省略等、途中文字の省略もある。
- 案: 「東京都千代田区霞が関2-1-2」
 - » 民間Webサービスで一般化している丁目以下を半角数字とする方式。
 - » 郵便番号、ビル名等の方書は、データ項目を別にする。

■ 住所(英語)

- 現状: 「1-2 Kasumigaseki 2chome, Chiyoda-ku, Tokyo 1008926, Japan」
 - » データ形式が多様。(項目順、区切りの方法等)
- 案: 2-1-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 1008926, Japan
 - » 府省で多く使われる形式に統一。
 - » 郵便番号、ビル名等の方書は、データ項目を別にする。

■ 郵便番号

- 現状: 「999-9999」「9999999」
 - » ハイフンの有無がある。
- 案: 「9999999」
 - » ハイフンなし方式。

■ 緯度経度

- 現状: 「35.40.31.584, 139.45.05.616」「35.675440, 139.751560」
 - » 度分秒方式等、複数方式が存在
- 案: 電子国土基本図地図情報ファイル仕様書に従い、JDG2011,TP/(BL)を採用し度単位で指定。
 - » 小数点以下は、基本的に6桁とするが、測量などで精度の高い情報が必要な場合には電子国土基本図地図情報ファイル仕様書に従い9桁とする

検討例(電話番号)

■ 電話番号

- 現状: 「99-9999-9999」「99(9999)9999」「(99) 9999 9999」「99 9999 9999」
 - » データ形式が多様。
- 案: 「99 9999 9999」
 - » ITU-T E.123に準拠。
 - » 但し、市外局番に括弧をつけるのは国内で一般的でないため採用しない

■ 電話番号

- 現状: 「+81-99-9999-9999」「+81 (99) 9999 9999」「+81 99 9999 9999」
 - » データ形式が多様。
- 案: 「+81 (99) 9999 9999」
 - » ITU-T E.123に準拠。

■ 電話番号(内線)

- 現状: 「内線9999,9999,9999」「内線:9999、9999、9999」「Ext.9999,9999」
 - » データ形式が多様。
- 案: 「9999/9999/9999」
 - » 内線は別データ項目で管理。ITU-T E.123に準拠して「/」で複数列挙。

検討例(コード)

■ 性別コード

- 現状: 「1:男」「2:女」「3:不明」等独自コードが多い
- 案: 「0:不明」「1:男」「2:女」「9:適用不能」
 - » ISO5208に準拠。

■ 町字識別子

- 現状: 民間コードを活用
- 案: 既存コードを基に新規コードを検討中

■ 施設等コード

- 現状: 独自コードが多い
- 案: 既存コードを基に新規コードを検討中
 - » 電子国土基本図地図情報ファイル仕様書、国土数値情報、標準産業分類等を参照